

## ご挨拶

お茶の水女子大学長  
郷 通子

お茶の水女子大学は、平成 17 年度に、文部科学省「魅力ある大学院教育イニシアティブ」として、人社系と理工農系の二つの大学院教育プログラムが採択され、平成 18 年度には、さらに人社系プログラムが採択されました。いずれも文系と理系を併せ持つ女子大大学院研究科だからこそできる教育プログラムです。これらの採択は、創立後 130 年を超える女性指導者育成の伝統と、新たな大学院教育プログラムを学長のリーダーシップのもと推進してきた実績が評価されたものと思います。

ここに報告する「＜対話と深化＞の次世代女性リーダーの育成」プログラムは、平成 17 年度に採択され、2 年にわたり、国際的学際的に活躍する女性リーダーの育成をめざし、ステージ制に代表される大学院教育の実質化を計画、実行して参りました。

同徳女子大学校、淑明女子大学校、台湾大学、北京外国語大学北京日本学研究センター、ヴァッサー大学、コレージュ・ド・フランス、パリ大学、ブレーズ・パスカル大学、カレル大学、中国社会科学院、ロンドン大学アジア・アフリカ研究院など多くの大学や学術機関と、大学院生の教育を目的とした、共同ゼミ、シンポジウムを開催したことは、学生にとって、自らの研究を国際的な視野で捉え、広く海外に発信していく大きな動機付けとなりました。とくに、英語を使って、大学院生が共同ゼミやシンポジウムで発表を行ない、海外の研究者たちと英語で討論を行ったことは、今後、大学院教育の国際化を進めて行く上で、大きな示唆を得ることができたと思います。

また、このプログラムの一環として、多くの大学院生が、海外調査を行い、博士論文執筆のための大きな手ごかりを得て戻ってきました。このような貴重な体験は、学生たちが、今後広く国際的視野をもって活躍し、女性リーダーとして羽ばたいて行く上で、大きな助けになることでしょう。

今回のプログラムに参加した大学院生たちの専攻は、哲学、倫理学、日本思想史学、歴史学、日本文学、英文学、日本語教育学、地理学、ジェンダー学、比較文化学等とさまざまですが、それぞれの分野において、国際化と学際化という現代的な要請を踏まえつつ、「人間とは何か」という永遠の問いを解き明かすべく、研究に励んでおります。彼女たちは、今回のプログラムで得た成果を生かし、必ずや、学問領域相互の、国と国との、文化と文化との＜対話＞を行いながら、それぞれの専門性と人間存在への理解を＜深化＞させてくれるでしょう。

本学は、130 年にわたり蓄積した伝統を踏まえつつ現代的要請に応える大学院教育を、今後さらに推進いたします。そして、各学問分野における指導的女性研究者を育成することによって、本学に課せられた社会的使命と、学問の発展に貢献したいと思います。

お茶の水女子大学の大学院は、平成 19 年から人間文化創成科学研究科として、21 世紀型の教育研究に取り組んで参ります。今後とも本学の教育と研究に支援を賜りますようお願い申し上げます。

2007 年 3 月